

第 23 回作業科学セミナーの内容が決まりましたのでお知らせいたします。
演題および参加者募集は、5 月開始となります。よろしくお願いいたします。

<第 23 回作業科学セミナー>

<テーマ>

変容する作業と未来

～先端テクノロジーは作業の何をどう変えるのか～

<日時および場所>

2019 年 11 月 23 日（土）～11 月 24 日（日）

茨城県立医療大学：茨城県稲敷郡阿見町阿見 4669-2

<http://www.ipu.ac.jp/article/14150679.html>

<講演・ワークショップ>

特別講演：情報技術の進展に伴う「作業」の変化

講師：荒川豊（九州大学大学院システム情報科学研究院情報知能工学専攻、
先端情報・通信機構学講座、ヒューマノフィリックシステム研究室）

招待講演：“Becoming acquainted” - an occupational perspective on
the process of incorporating AT into occupations.

“馴染んでいくこと” アシスティブテクノロジー（福祉機器類）
を取り入れる過程における作業的見通し

講師：Stina Meyer Larsen（Health Sciences Research Center/Department
of Nursing and Occupational Therapy, デンマーク）

佐藤記念講演：環境・社会・経済が織りなす持続可能な社会の実現

ー自然と人々の健康と作業に焦点を当ててー

講師：青山真美（一般社団法人 P&W 研究所 アイアム 代表理事）

ワークショップ：先端テクノロジーを生かした道具を用いた作業の開始

ーパターンランゲージを用いてそのプロセスを探索するー

講師/ファシリテーター：岡田誠(認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ(DFJI)、
共同代表理事)

テーマの主旨とセミナーの流れ

テクノロジーの発展に伴い、これまでには容易に出来なかったことが出来るようになったり、これまでになかった作業が誕生しています。テクノロジーの進歩によって、人の作業に大きな影響を及ぼすだろうことは誰もが思い付きませんが、それと同時に、作業についての様々な疑問が湧きます。例えば、

- ・ どの作業の形態が変わり、それに伴いその作業をする意味やすることによって得られるものは変化するのか？
- ・ 生活の中で、どんな作業を多くの人がすることを辞めて、その代わりに新たにどんな作業をするようになっていくのか？
- ・ どのような作業の価値が高くなるのか？
- ・ 価値や意味が変わらない作業とはどのような作業なのか？
- ・ 上記のような作業に関わる変化が、人の健康と生活の質にどのような影響を及ぼすのか？

本セミナーでは、テクノロジーの発展と作業との関係をテーマに、様々な角度から作業の様相を考えていく機会となるように企画しました。まず、1日目は、特別講演として、ユビキタスサービスの開発・研究、特にセンサ（IoT）と機械学習（AI）を用いた人の行動認識に関する研究者の荒川豊さん（九州大学）に、先端情報テクノロジーが人の生活にどのように関わっているのか、関わっていきそうかをお話しいただき、この領域のテクノロジーの発展が、どのような作業の様相に深く関わりそうであるかのヒントをいただきます。つぎに、荒川豊さんの話をきっかけに、先端テクノロジーを生かした道具を用いた作業の開始について、岡田誠（認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ）さんとともに、パターンランゲージを用いたワークショップを通して皆で考え、考えをシェアをしながら、参加者自身や身の回りの人の作業的存在の一部を見つめていきたいと思えます。

2日目には、基調講演として、デンマークの作業科学者であり作業療法士であ

る Stina Meyer Larsen さんに、高齢者の Assistive テクノロジー（福祉機器類）の受け入れについての知見をお話しいただきます。テクノロジーが発展し、出来なくなってしまう作業を比較的容易に行えるようになることがわかって、人は必ずしもその作業を再び行おうとするとは限りません。また、その受け入れ方は、人によって様々です。1日目のワークショップで考えたことや、この Stina Meyer Larsen さんの講演で得られるテクノロジーの受け入れと作業に対する知見をもとに考えや視野を広げることで、作業の再開や継続への支援を考えていくヒントが得られるかもしれません。そして、最後に、佐藤記念講演で、青山真美さんに、様々なテクノロジーが進んでも変わらず人の生活や健康にとって大事な作業とは何かを考えるヒントとなるお話をさせていただきます。

テクノロジーが発展し、めまぐるしく変わることが予想される社会の中で、改めて、作業の視点から、テクノロジーと人の関係を捉えていけるようなセミナーにしたいと思っております。多くの方に興味を持っていただき、ご参加いただけることを願っております。

第23回作業科学セミナー セミナー長 齋藤さわ子
実行委員長 伊藤文香